

クマの大量出没が心配される秋期編 クマを引き寄せない

秋期は堅果類の豊凶によりクマの出没状況が異なるが、誘引物の除去の徹底を！

秋期は堅果類の豊凶の影響を受け、クマが平野部まで出没する年があります。特に、ブナとミズナラが同調的に凶作の年は人家周辺までクマが出没し、クマによる人身被害が増加します。クマの大量出没年は庭にあるカキの実の早めの除去を徹底し、人とクマとの遭遇を減らす必要があります。なお、人里でのカキの実などの誘引物の除去の順番は、まず家の庭にある木、集落内の木そして周辺の農耕地にある木の順に作業するようにします。採った実はそのままとせず、適切に処理してください。また、そのような年は玄関先でも注意が必要であり、外出時は周囲を確認してから外に出るようにしてください。その他、車庫や納屋などの戸締りも徹底してください。



ブナの実



ミズナラの実



早めにカキの実の除去を行う。

近年、里山地域でもクマの生息が確認されていることから、山際の集落ではクマの情報に注意すると共に、誘引物の除去に取り組んでください。

人家周辺でのクマの痕跡 痕跡を見逃さない

県内において、秋期の堅果類の凶作年は、地域によってはクマが人家やその周辺に出没し、カキの実を採餌することが多く、各地域でカキの実がクマの誘引物となっています。その他、クリやギンナンの実を採餌するため、出没することもあります。クマが来たカキの木には爪痕やクマ棚が残り、その周辺に糞や足跡などの痕跡が確認されることがあります。これらの痕跡が残る前に、誘引物を除去するようにしてください。仮に、痕跡が見つかった場合は、必ず集落内で情報を共有するようにし、関係機関へ連絡してください。



クマの糞



クマの爪痕



カキの木に残るクマ棚

誘引物(カキなど)の除去の徹底を！

予想を超えた地域に出没も

河畔林や河岸段丘の林を移動

予想を超えた地域（河川敷や河岸段丘の林周辺の平野部など）に

出没することも！

堅果類の凶作年は、通常クマが出発しない地域に出没することがあります。山際地域の集落はもちろん、河川敷のヤブや河畔林や河岸段丘の林などを移動し、より低標高地域へ出没することがあり、近隣での新しいクマの目撃・痕跡情報の把握に努めてください。

近隣でクマの情報があつた場合は、不要不急の外出は控え、屋内や車の中などへ避難してください。



河川敷のヤブや河畔林などを移動



河岸段丘の林などを移動

クマとの偶発的な遭遇を減らす

できることから取り組む

県内では、特にクマの大量出没年の秋期に河川敷や河岸段丘崖の林などを移動し、より平野部へ出没する事例が増加します。そのため、そのような年を中心に、クマとの偶発的な遭遇を減らすために、人家周辺（自宅の敷地内も含む）のヤブなどを減らすことが必要です。もちろん、誘引物（カキの実）の除去の徹底もあわせて行いましょう。その他、山際でイノシシ用の電気柵を設置している場合（集落内を守るように設置）は、通電を継続・管理しましょう。



人家周辺や敷地内はヤブを減らし

見通しのいい環境作りを！

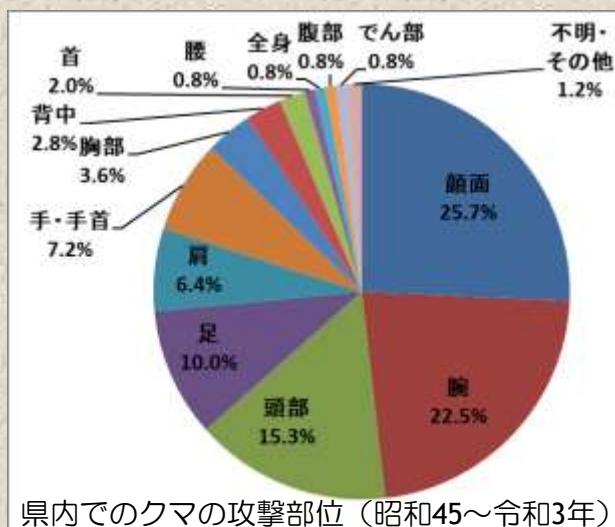
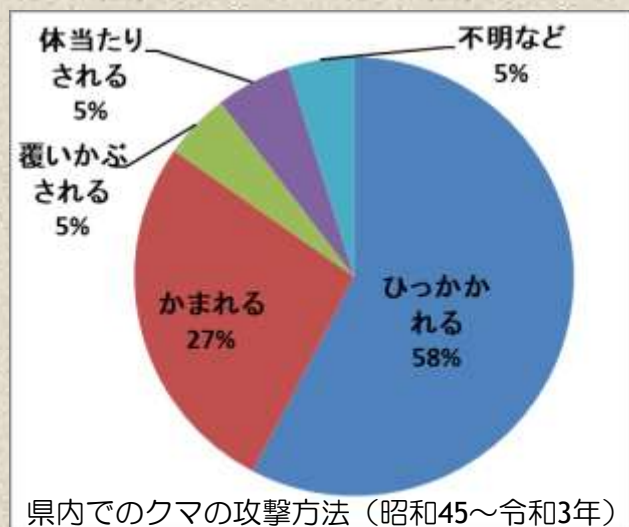
クマによる人身被害の発生状況 県内の事例より

県内のクマによる人身被害の事例から分析すると、人身事故の発生した時期や時間、場所などは下記のような状況です。

- ・人身被害の発生時期は10～11月が多くなります。これは、クマの大量出没年の秋期に多く人身被害が発生していることが影響しています。
- ・人身被害の発生時間帯は春期～夏期にかけて午前中、秋期は午前中でも早朝にも多く発生しています。朝夕・夜間の散歩など11月末まで控えてください。
- ・通常、多くは山林で人身被害が発生していますが、クマの大量出没年の秋期は人家や田畑などで被害が発生しているほか、100m以下の低標高でも多く被害が発生しています。
- ・もしものために、野外ではできるだけ1人で行動せず、2人以上の複数人で活動してください。

クマによる攻撃回避のための対策 一撃目を受けない

クマの攻撃性もその時の状況や個体により違ふと考えられることから、一概にこの行動をすれば安全とは言い切れません。ただ、人がクマの攻撃に対する準備をする必要があります。鈴やラジオなどを鳴らすことはもちろん、クマ撃退用のスプレーの携行や頭部や顔面を守るためのヘルメットの着用、非常用にナタなどの携行もあればいいと思われれます。



クマを避ける配慮と同時に、遭遇した際に被害を小さくする備えをする必要があります。過去の事例から頭部や顔面などへの攻撃が多いため、ヘルメットを着用するなど、被害の低減に努める必要があります。また、襲われる瞬間は防御姿勢をとり、顔面などに攻撃を受けないよう注意してください。その他、クマ撃退スプレーを携行し、攻撃を受ける前にスプレーをクマの顔面へ噴射するなど、より積極的な防御が必要です。(子連れの場合、鈴やラジオを携行していても、襲われた事例があります。)